

大震災・復興ニュース（第39報）

平成24年1月13日
仙台地方振興事務所水産漁港部

1 水産業復旧・復興に向けた対応状況（国及び県全体の動き）

<水産漁港部からのお知らせ>

がんばる養殖復興支援事業の認定

平成23年12月22日，第一回宮城県南部地域養殖復興協議会が開催され，宮城県漁業協同組合が事業主体となり，宮戸西部支所の養殖業者による海苔加工共同化の取り組みを行う事業計画が，県内に先駆けて認定された。

同支所事業の計画期間は平成24年1月～平成26年4月である。

奉献乾海苔品評会

平成24年1月7日，第64回奉献乾海苔品評会の審査会が塩釜神社社務所で行われた。

今回の出点数は60点（前回153点）であり，厳正な審査の結果，齋藤吉勝氏（宮城県漁協七ヶ浜支所）が皇室献上の栄えある優賞を得た。

その他の結果は以下のとおり（敬称略）。

準優勝：内海國治（石巻湾支所）

一等：石田信一（宮戸支所），阿部信弘（宮戸支所），奥田正勝（宮戸支所），
内海健靖（塩釜市浦戸支所），(有)千葉水産（塩釜市浦戸支所），我妻貞俊（七ヶ浜支所）

二等：門馬忠夫（宮戸支所），尾形一彦（宮戸支所），本田巧（石巻湾支所），
内海洋志（塩釜市浦戸支所），阿部義彦（塩釜市浦戸支所），赤間竹喜（七ヶ浜支所），
星博（七ヶ浜支所），尾形善久（宮戸西部支所）

技術賞：浅岡進（塩釜市浦戸支所），石森喜一（七ヶ浜支所），寺澤春彦（七ヶ浜支所），
星兵喜（七ヶ浜支所），櫻井健甲（宮戸西部支所）

1月11日には改めて塩釜神社本殿及び社務所大講堂において奉献乾海苔品評会が開催され，受賞者の表彰式が行われた。



審査会の様子

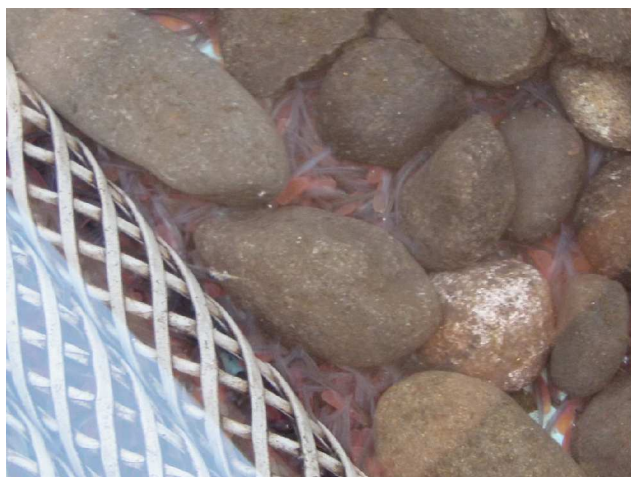


表彰式の様子

サケ採捕・採卵状況

12月末現在の管内のシロサケ遡上状況は、管内全体の採捕尾数は33,804尾（対前年比182%、今年採卵していない松島を除く）となっている。

管内の採卵数は、広瀬名取川漁協、宮城県漁協亶理支所、鳴瀬吉田川鮭増殖組合、白石川漁協の4団体で計画を上回る結果となっており、管内全体では9239.8千粒（対前年比123%、今年採卵していない松島を除く）となっている。



広瀬名取川漁協のシロサケ稚魚

2 管内の復興に向けた動き

<トピックス>

矢本支所がサポーターズクラブを創設

県漁協矢本支所が1口1万円の支援を募り、浜の再建に充てる「サポーターズクラブ」を創設した。

支援者が生産者と交流する仕組みを作ることで、支援者に長期的に復興に関わってもらうのが狙いであり、「1口オーナー制度」とは異なり支援者に収穫物は提供されないが、漁への同行や地引き網体験などの特典が受けられる。

マスコミ報道を見た地元や他地域の方々からサポーターの申込が来ており、秋のノリの収穫見学、支援金による番屋の建設なども計画されている。

なお、サポーターズクラブのHPは以下のとおり。

<http://ohmagarihama.jimdo.com/>

塩釜市魚市場にインド洋のキンメダイ上場

平成24年1月13日、塩釜市魚市場に遠洋底曳網船第58富丸がインド洋で漁獲したキンメダイ、メダイ、ミナミメダイが上場された。

これは（独）水産総合研究センター開発調査センターによって漁場開発されたインド洋で漁獲されたもので、塩釜市魚市場へのインド洋キンメダイの上場は1年ぶりである。

当日はキンメダイ4,692ケース約25万尾が上場され、400～780円/kgの単価で取引された。



上場されたキンメダイ